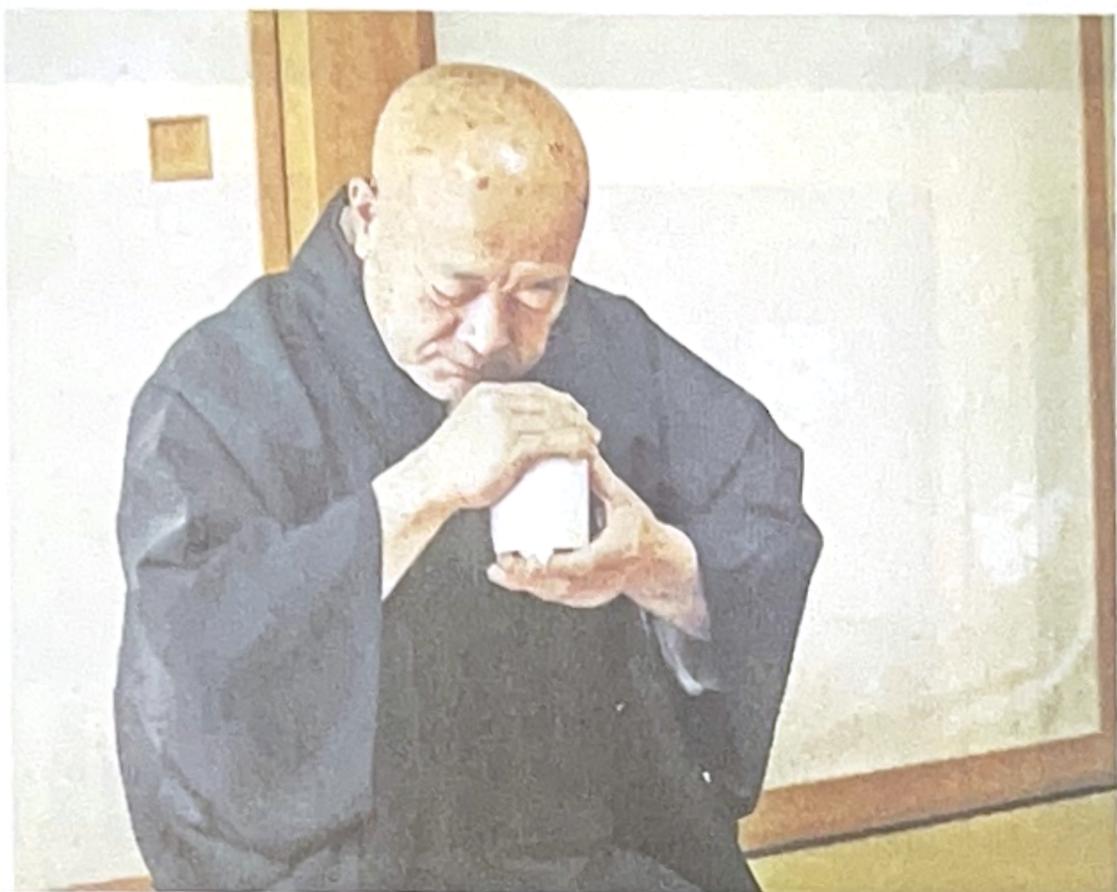


趣味

ゆうゆう

香道



醫王寺の香道の会で香を聞く村上徳栄氏。「日本の先人の豊かな感性が香道を生み出した。これほど繊細な芸道はない」と語る

香道に親しんで45年。禅僧とめた香道が、今では日々の暮らしの嗜みを身に付けようと始しを豊かにする大切な趣味にな

感性豊かに、香を嗜み45年

曹洞宗醫王寺（福島県いわき市）

村上 徳栄前住職（75）

っている。

醫王寺では自身が講師を務める香道の講習会を30年にわたって続け、日本の伝統文化の神髄を後世に伝えようと尽力している。「季節の移ろいや心の機微を香りと結び付ける。日本の先人の豊かな感性が香道を生み出した。これほど繊細な芸道はほかにはない」と語る。

在家の出身で、読書好きの少年だった。高校時代に哲学に傾倒し、当時流行していた実存主義の哲学書などを読みあさる中

「仏教と香は深い縁がある。

経典にも仏の世界の香りに関する記述が多くある。仏教を深く知る上で香道は欠かせない」という。

旧警成平藩安藤家第16代当主で、御家流茶道16世宗家、安藤家御家流香道11世家元の安藤綾信氏から直々に香道と茶道を教わった。美しい作法、先祖を慕うあつい思いなど、安藤氏から多くのことを学んだ。いわきの伝統文化を次代に伝えることは地域の人々の信仰心に支えられ

自ら講師、伝統次代へ

で、仏教の解説書や『正法眼蔵』にも親しんだ。高校3年の時、文部省（当時）の推薦で米

てきた醫王寺の和尚の務めだとして、毎月、香道の講習会を続けている。

国ニューヨーク州の高校に留学したことが転機となり、日本文化に関心を持つようになった。英語で仏教をどのように表現するか、鈴木大拙の著書などを参考に、自分なりに工夫した。

「香木は舶来のものだが、それが日本人特有の思想と結びつくことで世界でも類を見ない芸道ができた。人間から動物、植物まで全ての生命に感謝する日本人の感性がなければ香道は体系化されなかっただろう。米国に留学したことがきっかけとなり、そのような魅力に気付くこ

帰国後、駒澤大に進学。大本山永平寺で4年間安居した後、縁あって醫王寺に入った。達筆だった先代住職の影響で書道を始め、併せて香道や華道も学んだ。

とができた」と話した。

（奥西極）